

方言だから伝わることを考えて

白岩 広行

実験・方言で書いてみる

このブックレットは、方言の危機と、その記録・継承をテーマにまとめられると聞いて、今、この文章を書きはじめています。歯がゆいのは、この文章を標準語で書かねばならないことです。方言には「書きことば」というものが整備されていません。私は東北人で東北方言が母語なのに、方言について書くこの文章を、方言で書くことはできないのです。なんという自己矛盾でしょう。

日本語の標準語は、古事記や日本書紀以来の積み重ね、明治維新以降の外来語の導入などを経て、書きことばとして十分に整備されてきました。学術研究や政治経済の場などで、高度に知的な内容を表現できる点において、おそらく世界で

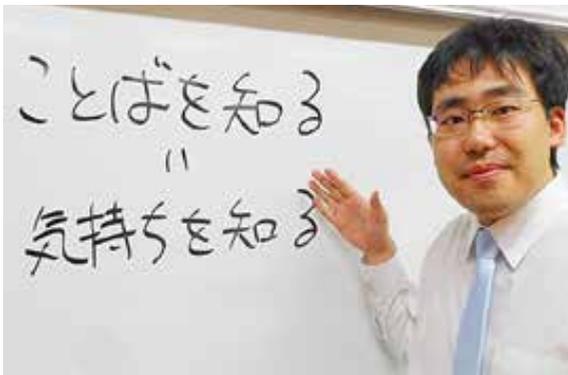


写真1 筆者近影

も有数のことばでしょう。

一方、方言は話しことばですから、文字に書くことは基本的にありません。その素朴さが方言の魅力でもあるのですが、今や一人に一台スマホがあつて、会話といえは口で話すだけでなく、LINEで書くのが当たり前の時代です。実際、方言の会話をそのままLINEに書く人もいますでしょう。ただ、東北方言には標準語にない発音がいくつかあり、それをどうやって文字にするかは、人によってバラバラのようです。

ならば、方言でも表記法（文字に書く方法）を整備してよいはずです。海外の少数言語の復権運動でも、その言語の記録・継承のために表記法を整えることが大きな意味を持ちます。

幸いなことに、私の母語である福島方言は、標準語の表記法を応用することで、簡単に書くことができそうです。学術論文用のお堅い文体はありませんが、会話調の文体なら文字に書けるかもしれません。研究者としてみずから範を示し、方言の文章を書いてみるのも面白い試みです。

そんなわけで、以降の文章は福島方言で書きます。安心してください。難しい表現は避けて初級レベル



写真2 筆者の母校と福島市のシンボル信夫山
(映画『となりのトトロ』主題歌「さんぽ」の舞台とされる)

にします。簡単な語積をつけるので、福島方言を学ぶ手助けになるでしょう。方言の記録・継承にむけて、この記事自体を実験的創作にすることをお許しください。方言だからこそ伝わる何かがあるかもしれません。

俺の生まれ育ち

俺は福島県保原町ほぼらまちつつうとこで生まっちゃんだ。今は市町村合併して伊達市だな。親父もおふくろも、江戸時代からずっと保原町で農家やってる家だから、俺も生粋の福島人つつうわけだ。福島のことばで育てらっっちゃから、俺にとつて、標準語つつうのは、第二言語なんだよ。今は東京で暮らしてっけど、独り言うときは、やっぱし福島のことばなんだよな。こっから先も、普段の独り言みてえに書いてみっから、しばらくつきあつてくんにか。

【語釈】

- 生まっちゃ || 生まれた、育てらっっちゃ || 育てられた(「れた」 ↓ 「っっちゃ」という音変化)
- 暮らしてっけど || 暮してるけど(「る+k音」 ↓ 「っ+k音」)



写真3 福島盆地遠景

方言の記録のために

たぶん他の人も書いてっと思うけど、方言の記録で必要なのは、談話資料、辞書、文法書の「三点セット」なんだよ。英語だの中国語だの、外国語の勉強すつとき、まず会話のお手本聞いて、新しい単語覚えて、文法解説読むべした。それと同じで、「このことは、どんなことばかな」つうのを知るには、実際の会話の資料と、単語を集めた辞書と、文法のことろがわかる文法書の三つが必要なんだ。

【語釈】

- 書いてっつと書いてると（「る＋t音」↓「っ＋t音」という音変化）
- 読むべした⇨読むじゃないか（「べした」は「じゃないか」の意味）
- 同じ⇨同じ（福島方言では「おなし」あるいは「おんなし」と読む）

俺、後悔してっつこと、ひとつあんだ。俺が大学二年のとき、ひいばあちゃん死んだんだけど、元氣なうちに、ひいばあちゃんに方言のこと聞いておくんだったなあ、って。んだから、今は、ばあちゃんさ方言のこと、いろいろ聞いてんだよ。ばあちゃん、もう八十歳過ぎたけど、ありがてえことに、今でも畑さ出るくれえ元氣だから。して、こないだ、今まで聞いたことをもとにして、とりあえず簡易版の「三点セット」を報告書にまとめたんだ。談話資料としては、ばあちゃん俺の日常会話、三時間分くれえ、まとめた。

【語釈】

- あんだ 〓 あるんだ（「るん」↓「ん」という音変化）
- んだから 〓 それだから
- して 〓 〓 して
- こないだ 〓 この間

平凡な日常は大事なんだ

俺、腑に落ちねえこと、あんだよ。最近マシになったけど、福島の新ニュースつつうと、一時期、原発のことばっかだったべした。もっと他の話題もあるはずなのによ。

だいたい悲劇か美談かのドラマ仕立てなんだよな。「福島の被害はこんなに深刻です」つつう悲劇か、「こんなにひどい状況でも前向きにがんばる人がいます」つつう美談か。どっちにしても「福島 〓 原発でひどい」つつうイメージが前提なわけだ。そのくせ「深刻な風評被害を前に、報道にたずさわる我々のできることを考えなくてはなりません。……さて、次のニュースです」って、「さて」じゃねえよ。考えてくれよ。風評被害の原因は、あんたらだつつうの。

震災の年の年末、実家さ帰ったつけ、福島の駅前さ「星に願いを！」つつう看板立ってたのよ。



写真5 俺が作った報告書

市の企画なのかな。見てみると、おもしろいんだ。通行人が星マークのシールさ願いごと書いて、貼ってぐんだな。震災の年だから「早くもとの福島にもどりますように♡♡♡」つつう願いごともあるけど、「ダイエットが成功しますように！」とか「頭が素晴らしく良くなりますように」とか、震災と関係ねえことも多いんだ。「嵐のコンサートに行く」ってのもあったな。

【語釈】

● 帰ったつけ＝帰ったら「たっけ」は「たら」の意味

● おもしろいんだ＝面白いんだ（「おもしろい」は「面白い」の意味）

震災の年だって、みんな原発のことばかり考えたわけでねえんだよ。平凡な日常生活を守った人が、いっぱいいたんだ。それって、すご



写真6 街の人が願いごとと貼ってぐ



写真7 福島市民の願いごと

いことだよ。いや、震災のあるなしと関係ねえ。平凡な日常は、いつだって大事なんだ。でも、平凡なことはニュースになんねえんだよな。

【語釈】

- 考えたつ || 考えてた (「てた」↓「った」という音変化)
- わけでねえ || わけじゃない (「でねえ」は「じゃない」の意味)
- なんねえし || ならないし (「らない」↓「んねえ」という音変化)

ことばの記録は生活の記録にもなる

俺、方言の記録は、日常生活の記録にもなつと思うんだ。ニュースの記事は、東京の偉い人の編集が入つぺ？ でも、例えば、談話資料は、地元の間が地元のことはでしゃべつたままを文字にすんだから。何の編集も入んねえ、ありのままの日常なんだ。俺が作った談話資料とは、ばあちゃんの普段の会話が入つてんだ。震災だの原発だのの話もあつけど、昔の思い出だの、最近の畑の話だのもある。よく考えつと、生活の記録なんだよ。

【語釈】

- 入つぺ || 入るべ || 入るだろう (「る + b 音」↓「つ + p 音」という音変化)

それに、標準語のニュース記事では伝わんねえことが、方言では伝わる気がすんだ。「ことば

を伝える」つつうことは、「生活を伝える」つつうことでもあんだべな。

福島に限んねえ。もし興味ある人いたら、「三点セット」作る仲間さ、混ざってくんにいべか。おもしろい話あつたら、俺さ教えてくれつと、うれしいなあ。

方言で書いてみて

以上、方言の記録・継承について、私の取り組みと考えることを紹介しました。この記事を方言で書いたのは、本気で記録・継承活動を進めるなら、研究者が率先して方言を実用する試みがあつてもよいと思つたためです。

「お年寄りと話す機会がないから方言を使う場面がない」というのはよく聞く話です。だったら、使用場面を広げてみようと思ひました。こんなふうに、エッセイ風の文章は方言でも書けるのですから、ブログやツイッターも方言で書けるはず。私のように、方言を使いたいけど話す相手がいなくて悶々としている人が、一定数いるのではないでしょうか。方言を書いてみる試みを、福島から始めてみるのも面白いと思ひました。震災後の福島は、新しいことを始めるのに絶好の場所です。



写真8 福島県キャッチコピー「ふくしまからはじめよう。」

ただ、この試みが成功だったか失敗だったか、私にはわかりません。機会があれば、感想をお聞かせいただければ幸いです。話題が研究に關することだった点、相手のいない一人語りだった点で、やはり方言では書きにくかったというのが本音でもあります。こうやって標準語に切り替えてからのほうが、筆が進む、進む（笑）。

でも、やっぱり方言だからこそ伝わるものがあつたと私は思いたいのです。これが私の母語ですから。

付記・福島方言の表記法

最後になりますが、福島方言の表記法に關して、気をつけたことを三つ書いておきます。この三点は、福島に限らず、東北諸方言に共通することだと思えます。発音に即した表記よりも、読みやすい表記になるよう心がけました。

まず、濁点の問題です。福島方言では、か行・た行の音を濁音のように発音することがあります。例えば、「江戸時代から」は「江戸時代ガラ」と発音します。でも、そのようなか行音・た行音にすべて濁点をつけると読みにくいので、濁音をつけずに「江戸時代から」と表記しました。もし音読するときは「江戸時代ガラ」と発音すると福島方言らしくなります。

つぎに、ズーズー弁の問題です。伝統的な福島方言では「し」と「す」の音を区別せず、どちらも「ス」に近く発音します。例えば「しばらく」は「スバラグ」に近く発音します。でも、や

はり「すばらく」と書く readability が低いため、それと、私の世代では「し」と「す」を発音し分けるので、「しばらく」と表記しました。

そして、「が」「を」の問題です。福島方言では、「が」とか「を」という助詞をあまり使いません。「俺が酒を飲んだ」ということは、「俺、酒飲んだ」のように助詞を使わずに表現します。でも、文章で「が」「を」を省略すると読みにくいので、「が」「を」を補って書いたところがあります。

読み書きしやすい表記法を整備するのも研究者の仕事です。こちらもご意見いただければ幸いです。

また、この記事で紹介した報告書は無料でお送りしますので、ご希望の方はご連絡ください。ネットで「web白岩」と検索すると、私の個人サイトが見つかります。連絡先はそこに書いてあるとおりです。

(本稿には、JSPS科研費26770160および15K02557の成果が含まれる。)



写真9 街中で見かけた方言の表記例 (か行・た行に濁点をつける表記も街中には多い)

人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト
「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」ブックレット

新しい地域文化研究の可能性を求めて Vol. 3
ことばは文化の源

発行日／2018年2月28日

編 者／木部暢子・麻生玲子

発 行／人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト

「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」

印 刷／株式会社 弘 文 社
